

神戸

開局の原点 電波で1日復活

長田「FMわいわい」



新長田駅前の広場で生放送をする金千秋さん(中央)らFMわいわいのメンバー＝神戸市長田区

震災をきっかけに生まれた神戸市長田区のコミュニティ放送局「FMわいわい」が、当時と同じFM電波を使った放送を1日限定で復活させた。JR新長田駅前に臨時のスタジオを設け、約2時間、地元での追悼行事などを中継した。

「わいわい」は震災翌年に開局。在日韓国・朝鮮人向けに災害情報を放送していた「FMヨボセヨ」と、ベトナム人らが始めた「FMユーマン」が合併した。在日外国人向けの多言語放送だけでなく、日本語で地域に密着した情報発信を続けた。東日本大震災では、東北の臨時災害放送局の立ち上げを支援。だが、昨年4月、資金難でインターネット放送に移行した。

午後5時に始まった生放送では中学生の合唱「しあわせ運べるように」などが流れた。携帯ラジオで聴いた宮川清さん(69)は「いい歌だね。震災直後はラジオが頼りだった」。

「当時に思いをさせてほしい」と放送を企画した代表理事の金千秋さんは「私たちはここから始まったと再認識したい」と話している。(山崎輝史)